



秋岡 芳夫（産業） 故人

大正9年（1920年）4月29日 生

平成9年（1997年）4月18日 没

（享年76歳）

【写真は遺族提供】

秋岡氏は熊本県下益城郡豊福村（現宇城市松橋町）で生まれる。東京高等工芸学校木材工芸科卒業後、東京市役所職員となる。退職後に、童画や銅版画の制作に取り組み、工業デザイングループKAK（カック）を設立した。その後、日本各地のものづくりや地域デザインに関わるモノ・モノ運動を開始し、有限会社モノ・モノを共同で設立した。東北工業大学工業意匠学科教授、学科長、共立女子大学生生活美術学科教授を歴任。

氏は、昭和28年に金子至、河潤之介と日本で最初の工業デザイン事務所である有限会社KAKを設立する。全国的に知られる三菱鉛筆UNI、列車あさかぜ（ブルートレイン）、小学生向け教育雑誌「科学」の付録など、生涯で約3,000点の製品を手掛け、工業デザイナーとして多くの優れたデザインを世に送り出した。高度経済成長期以降、消費社会の到来にいち早く警告を発し、「立ち止まったデザイナー」を名乗る。「消費者から愛用者へ」を提唱し、日本人の生活風土に根ざしたデザイン運動（モノ・モノ運動）を主宰した。東北工業大学工業意匠学科教授に就任すると、地域産業や伝統工芸品に深い関心を持ち、その地域ならではの生産、流通、生活の調和を目指し、全国各地の手仕事の復興や地域再生に尽力した。県伝統工芸館の開館に当たり基本コンセプトの構築や工芸品の選考に関わり、館は氏が提唱する「地域におけるモノづくりと暮らし」という考え方を全面的に取り入れ、この考え方は現在まで受け継がれる礎となっている。

これらの功績から毎日産業デザイン賞（工業デザイン部門）、国井喜太郎産業工芸賞（工業デザイン部門）、通産大臣デザイン功労者表彰など多数の賞を受賞している。また東北工業大学第三生産技術研究室が地域再生事業に取り組んだ北海道置戸町は、日本文化デザイン賞（地域文化デザイン部門）を受賞した。

- 昭和16年 東京高等工芸学校木材工芸科卒業、東京市役所就職
- 昭和21年 復員後、東京都退職。童画や銅版画の制作
- 昭和28年 （有）工業デザイングループKAK（カック）設立
- 昭和44年 KAK退社。モノ・モノ運動開始
- 昭和52年 東北工業大学工業意匠学科教授
- 昭和55年 熊本県伝統工芸館開館に向けたビジョンづくりに参画
- 昭和57年 共立女子大学生生活美術学科教授